

惡

もろともに大うち山はいでつれどいるかたみせぬいざよひの月、とうらむるもねたけれど、  
略○下

〔新撰字鏡〕女嫌支○胡兼反疑也、支○音不、汚○

〔類聚名義抄〕心六惡心六、音クム

憎音音

〔同女〕嫌正嫌或胡兼反、和ケン

〔運歩色葉集〕仁憎仁、音クム

〔書言字考節用集〕言八辭惡言八、音クム 憎音音 疾音疾

〔倭訓栞〕前編二十に「くむ 惡字憎字などをよめり、俗諺に坊主が憎ければ、袈裟まで憎しといふ

は、六韜に、愛其人及其屋上鳥憎其人憎其除胥」と見えたり、惡字去聲、洪武正韻に仇怨也と注す、

〔雅言集覽〕七にくむの仁、音クムに仁、音クムくむ仁、音クムの仁、音クムにくむ仁、音クムと、常の仁、音クムにくむ仁、音クムと三様あり、

〔倭訓栞〕前編三に「いとふ 厭字をよめり、いたむの轉せる詞なるべし、

〔藻鹽草〕十六厭十六、音クム

いとふ世厭世、音クム 共共、音クム うきを厭うき、音クム だにだ、音クムいとふわ 我を厭我、音クム いとほしき いとほじ不厭也 かせを厭

あやしくも厭にはゆる心 月を厭 雲を厭 人々といとひしもおる なぎたるあさのわ

れなれやいとほれて晴にそへ 駒の野がひがてらにはなちすてぬる是いとほ

〔古今和歌集〕十五題しらす きのとものり

雲もなくなきたるあさの我なれやいとほれてのみよをばへぬらん

〔日本書紀〕二十一五年十月丙子、有獻山猪、天皇指猪、詔曰、何時如斷此猪之頸、斷朕チカシトキモ所嫌之人、多設兵

仗、有異於常、壬午、蘇我馬子宿禰聞天皇所詔、恐嫌於己、招聚儻者、謀弑天皇、

〔平治物語〕二信賴降參事并最後事

右衛門督信賴原ノ年來ノ下人主ノ死體ヲ收メントスルニヤト見ル處ニ、左ハナクシテ、體ヲハ